

運にライバルはいません。海運は他のどんな運搬手段に勝ってコストが安いんです。日本は周りを海で囲まれているので、輸入品はすべて何らかの方法で運ばれて来ますが、99.6%は海運なんですよ。コストが非常に安いということが決定的なんですね。

世界は海で繋がっています。バビロンの商品を世界中に届けるためにフル活動するのが海運業なんです、これは世界が一つにまとまるのが前提です。

ところで、この動画を収録している今日現在、“アメリカが、アメリカとカナダの国境地帯にある湖の上空で、未確認飛行物体を撃墜した”というニュースがありました。これで4つ目です。撃墜した直後、アメリカは中国人民解放軍の請負企業6つの会社の実名を挙げてエンティティ・リストに入れ、「これらの企業を制裁する！」と明言しました。非常に迅速な対応ですね。なぜこんなに迅速な対応で、ここがやった、こうだ、こうだと言えるのか。既に情報を持ち、把握していたのですが、今回は物証を得たということなんです。

これを皮切りにどんな事が起こるのか。ひと言で言うと、世界経済がブロック経済に逆戻りします。実はバイデン政権は中国に甘い政権です。しかし、アメリカ上下院の議会が中国に非常に強硬なので、ホワイトハウスを縛るような形で制裁させていく。それがどんどん進んで行ってるんですが、TikTokをはじめ、すべてが制裁対象になって行きます。特に今回の気球問題を皮切りにこれが一気に進んで行くので、世界経済はかつて米ソが対立していた冷戦時代、西側と東側の経済圏が分離していたように、アメリカ中心の西側経済圏と中露のグループに真二つに割れて行くでしょう。

しかし、最終的に世界はグローバル経済、一つになるというのが聖書が語っていることです。その詳しいことは今までもお話しして来たので、ここでは端折りますが、少なくとも艱難時代においては、世界はグローバル経済が完成形になっているんですね。

さて、この海運業者たちが注目しているものがあります。

18 彼女が焼かれる煙を見て、「これほどの大きな都がほかにあったらどうか」と叫んだ。

彼女とはこれほどの大きな都。すなわち大バビロンです。大バビロンの何に注目したのか。焼かれる煙を見た。壊滅したバビロンから立ち上る煙を見た。大きな都が廃墟となって、そこから立ち上る煙を見た。聖書には“廃墟化した町から煙が立ち上る。それを見る”という描写がいくつか出て来ます。その最初は、ソドムとゴモラという町が神からの裁きの火で焼き尽くされた後、残骸から煙が立ち上り、それを見るという記事です。

創世記 19 章

27 翌朝早く、アブラハムは、かつて主の前に立ったあの場所に行った。

28 彼は、ソドムとゴモラの方、それに低地の全地方を見下ろした。

彼が見ると、なんと、まるでかまどの煙のように、その地から煙が立ち上っていた。

神の裁きが実行されてソドムとゴモラが壊滅した。その壊滅した町から煙が立ち上っていた。その煙は神の裁きが実行に移されたしるしなんですね。それを見ていたアブラハムの心には、厳か

な気持ちが沸き起こったに違いありません。それと同じように、この海運業者たちはバビロンが焼かれる煙を見ている。彼らは神の裁きを感じ取ったに違いないのです。

19 彼らは頭にちりをかぶり、泣き悲しんで叫んだ。

「わざわざいだ、わざわざいだ、大きな都よ。海に船を持つ者たちはみな、ここでその繁栄から富を得ていたのに、その都が一瞬にして荒れ果ててしまうとは。」

確かに海運業者たちの反応は悲しみです。それが分かるのは、頭にちりをかぶるという表現。これはどん底の悲しみの表現なんですね。

聖書で最初に頭にちりをかぶった人は、モーセの後継者ヨシュアです。彼がアイという町と戦争した時、絶対に勝てるはずなのにイスラエル軍がぼろ負けしたんです。その時「なぜこんな事になってしまったのか?!」と悲しみの極みの表現として、イスラエル軍のリーダーであるヨシュアは頭に灰をかぶったんですね。

頭にちりをかぶる・灰をかぶるのは悲しみの極みの表現。この海運業者たちは悲しんでるんです。どん底の悲しさなんです。しかし、神の裁きを恐れて、自分の罪を悲しんで頭にちりをかぶっているんじゃない。ここにはっきり書いてありますよね。その繁栄から富を得ていたのに、その都が一瞬にして荒れ果ててしまう。だから悲しんでるんです。

彼らはバビロンに人生のパイのすべてを乗せてました。バビロンに人生を掛けていた人は、バビロンが一瞬にして滅んだ時、その人生の価値も一瞬で滅びたんです。バビロンに代表される反キリストとその悪に人生を投資する人は、一時的な繁栄を得ることはできますが、最終的にはすべて無に帰するのです。

逆に、キリストとその真実に人生を掛けた人たちは、一時的にはこの世で不当な扱いを受けたり、不利なことをされるかもしれませんが、最終的にはすべてを得ます。倍返しがあるのです。キリストは言われました。「天に宝を積みなさい。」私たちがやがて創造主である神の前に立つ時が来ます。価値を失わないようなことに人生を費やすことができれば、どんなに素晴らしいかと思いました。

今まで3回シリーズで、バビロン崩壊によって悲しむ3種類の人たちを紹介しました。今回は、バビロン崩壊によって喜びの極みに達しているグループを紹介します。よろしければ続きもご覧ください。チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。それまで皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

マタイの福音書 6章 20節

自分のために、天に宝を蓄えなさい。
そこでは虫やさびで傷物になることはなく、
盗人が壁に穴を開けて盗むこともありません。